

◆授業設計のポイント◆

- ・ 生徒の実態把握と学習活動の工夫
- ・ 対人関係を築くための手立ての工夫
- ・ 生徒が学びを振り返る工夫

自立活動学習指導案

日時 令和元年11月11日（月）5校時
対象者 自立活動グループ（男子1人，女子1人，計2人）
場所 総合学級4組教室（2年校舎1階）
授業者 教諭 川崎 洋平

1 活動内容 いろいろな場面での自分の言動について考えよう

2 活動設定の理由

(1) 生徒の実態

本グループは自閉症・情緒学級の2年生男子1人，女子1人で構成されている。どちらも，他者とのかかわりの中で，意図や感情の理解が苦手であったり，自分の感情を調整できなかつたりすることがある。その結果，生徒Aは相手のことを考えない言動が見られたり，長時間，自分の気持ちを調整できなかつたりすることがある。生徒Bは自己肯定感が低く，相手のことを考えすぎて，自分の気持ちを相手に伝えることができない。そのため，相づちを打つだけのことが多く，常に受け身である。また，困ったときに教師に相談し，援助を求めることが苦手で，教師が異変に気付き，声を掛けても，なかなか自分の気持ちを整理して伝えることができないことがある。

そこで，なりたい自分像（マンダラチャート）について考えた。その結果，「信頼されるような人になりたい」「会話が上手になりたい」など，「他者とのかかわり」や「人間関係の形成」，「コミュニケーション」に関する内容が見られた。このことから，生徒自身が必要な力として意識していることが分かる。

(2) 活動の意義・価値

以上のような実態から，「心理的な安定」や「人間関係の形成」，「コミュニケーション」に焦点を当て，学校生活で起こりうる困難を感じる場面を通して，よりよいかかわり方について考える学習を設定した。この活動は，自分の考えを伝える，友達の考えの良い点や改善点を伝える，よりよいかかわり方や言動について考えることができるものである。

(3) ねらい

そこで本活動でも，活動を通してよりよいかかわり方について考えたり，自分の考えを整理して相手に伝えたりすることができるようにする。また，相手の考えの良さや改善点を整理して伝えることで，自己肯定感を高めることで，他者とのかかわりに生かせるようにする。

(4) 指導観

具体的には，学校生活の中で起こりうる他者とのかかわりで困難を感じる場面を想定し，これまでの自分はどのような感情や言動になるか考え，よりよいかかわり方について考える。考えたことを発表することで，自分の考えを友達に伝えることができるようにする。また，友達の発表から，良い点や改善点を相手に伝える場面を設定する。最後に2人の意見を出し合い，よりよいかかわり方や発言を考えることで，自分の考えを整理して，適切な言動を取ることができるようにしたい。

(5) 展望

このように，学校生活で起こりうる困難を感じる場面でよりよいかかわり方について考えることで，自分の考えを認めてもらい，自己を肯定的に捉え，他者とのかかわりに自信をもつことができるようになると思う。

3 活動の目標

(1) 全体目標

- ア 他者の言動から意図や感情を読み取ることができる。
- イ 相手の考えの良さや改善点を見つけ、伝えることができる。
- ウ 場に応じたかかわり方や相手の気持ちを考えた言動について考えを深めることができる。

(2) 個人目標

生徒 A	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の言動から意図や感情を読み取り、相手のことを考えた言動について考えることができる。 ・意見交換から自分の考えとの違いに気づき、考え方に広がりをもつことができる。
生徒 B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理して、相手に伝えることができる。 ・他者とのよりよいかかわり方について考えることで、自己肯定感を高めることができる。

4 指導計画（全 8 時間）

次	学習内容	時数
1	これまでの自分を振り返り、なりたい自分像（マンダラチャート）を作成しよう。	1
2	マンダラチャートを基に、自分の課題を見つけよう。	1
3	他者とのかかわりの場面①「係決めの際のやりとり①」について考えよう。	1
4	他者とのかかわりの場面②「係決めの際のやりとり②」について考えよう。	1
5	他者とのかかわりの場面③「修学旅行の食事の際のやりとり」について考えよう。	1
6	他者とのかかわりの場面④「清掃時の友達とのやりとり」について考えよう。	1
7	他者とのかかわりの場面⑤「違うクラスにいる友達に会いに行ったときのやりとり」について考えよう。	1 本時
8	他者とのかかわりの場面⑥「友達との約束が守れなかったときのやりとり」について考えよう。	1

5 本時の実際

(1) 目標（評価規準）

ア 全体目標

- (ア) 他者とのかかわりの場面から、自分や相手の心情を考えることで、よりよい言動について考えることができる。
- (イ) 友達の考えの良さを発見したり、自分の考えを認めてもらったりすることで、考え方に深まりが出たり、自己肯定感を持つことができたりする。

イ 個人目標

生徒 A	<ul style="list-style-type: none"> ア 自分の気持ちや相手のことを考えた発言をすることができる。 イ 自分の考えた発言に対する友達からの意見を聞き、よりよい発言について考えることができる。
生徒 B	<ul style="list-style-type: none"> ア 自分の考えを整理して相手に伝えることができる。 イ 考えた発言を友達に認めてもらい、よりよい発言について考えることで、自己肯定感を持つことができる。

(2) 授業づくりの視点

ア 生徒の実態把握と学習活動の工夫

これまでの学校生活の中で困難を感じる場面を基に，感情や言動について考えることで，今後，よりよい学校生活が送れたり，人とかかわれたりすることができるようにしたい。そのために，マンダラチャートでなりたい自分像を考え，その中の「他者とのかかわり」や「人間関係の形成」，「コミュニケーション」に関することに焦点をあて，意識して学習に取り組ませる。また，汎用的な資質能力の育成にもつなげていきたい。

イ 対人関係を築くための手立てと工夫

生徒 A は，思ったことや事実を膨らませて話してしまうことがある。生徒 B は，自分の考えに自信がもてず，自分の考えを相手に伝えることができず，受け身になってしまうことが多い。このことを改善するために意見交換の場を設定し，より良い考え方や，自己肯定感をもつことができるようになるために，相手の考えの良さや改善点を相手に伝える活動を取り入れる。

ウ 生徒が学びを振り返る工夫

振り返りの場面で，考え方の変化が視覚的に分かるように，板書した発表内容や座標軸を使って振り返る。教師が称賛することで，自己肯定感を身に付けさせ，今後の学校生活や人とかかわりの中で生かせるようにしたい。

(3) 本時の展開

過程 (分)	主な学習活動	指導上の留意点および生徒の活動の様子、支援の手立て ※授業設計の工夫	
		A	B
導入 5分	1 始まりの挨拶をする。 2 前時の学習を振り返り、本時の学習目標を確認する。 友達とのやりとりの中で、自分の心情と、そのときの相手の心情を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりを意識できるような言葉掛けをする。 前時にどのような内容の場面について考えたか言葉で教師に伝えるようにする。 本時の学習目標を知り、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 自分の書いたマンダラチャートを振り返り、なりたい自分について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時で考える場面について知る。
展開 40分	4 場面について考える。 (1) 心情や行動を振り返り、発表する。 思考ツールの活用 (2) どのように考え、伝えれば良かったか考え、発表する。 思考ツールの活用 ※ 論理的思考力 1	<ul style="list-style-type: none"> 場面①②での気持ちを考え、場面③について、自分の気持ちや相手の気持ちを考えて、相手に伝えられたか思考ツールを利用しながら考えさせることができるようにする。 場面③で、どのように相手に伝えれば自分の気持ちを伝えることができたかを考えさせることができるようにする。 <p>友達の発表がどうだったか、自分の考えを思考ツールを利用して発表することができるようにする。</p> <p>一人だけで考えがまとまらない場合は、教師と一緒に考え、自分の意見を引き出せるようにする。</p> <p>十分な時間を設定し、自分の考えでまとめられるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①②の相手の発表時に、相手の考えがどうであったか、思考ツール（座標軸）を利用させて考えられるようにする。 相手の考えがどうであったか、思考ツール（座標軸）を使いながら、意見を言えるようにする。 また、意見交換の際、良かった点、改善すべき点を相手に伝えるようにする。 スムーズにまとめられるように、お互いの良い考えを振り返ることができるようにする。 2人で話し合った意見や考え方を称賛することで、充足感を味わうことができるようにする。
終末 5分	6 本時の学習内容を振り返る。 ※ メタ認知 2	<ul style="list-style-type: none"> 展開4の①から5の意見交換後の変化を振り返らせ、自分の変わった部分に気付くことができるようにする。 <p>活動を通じて意図や感情を理解し、場に応じた言動を考えることができたことを称賛する。</p> <p>自分の考えを相手に伝えることができたことや、肯定的な考え方ができたことを称賛する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時に考える場面設定について知らせる。 姿勢を正し、しっかりと挨拶ができるようにする。
	7 次時の学習内容に確認をする。 8 終わりの挨拶をする。		

※論理的思考力 1 : 体験を基に自分の考えをもつことができる。

※協働する力 1 : 他の人に自分の考えを伝えることができる。

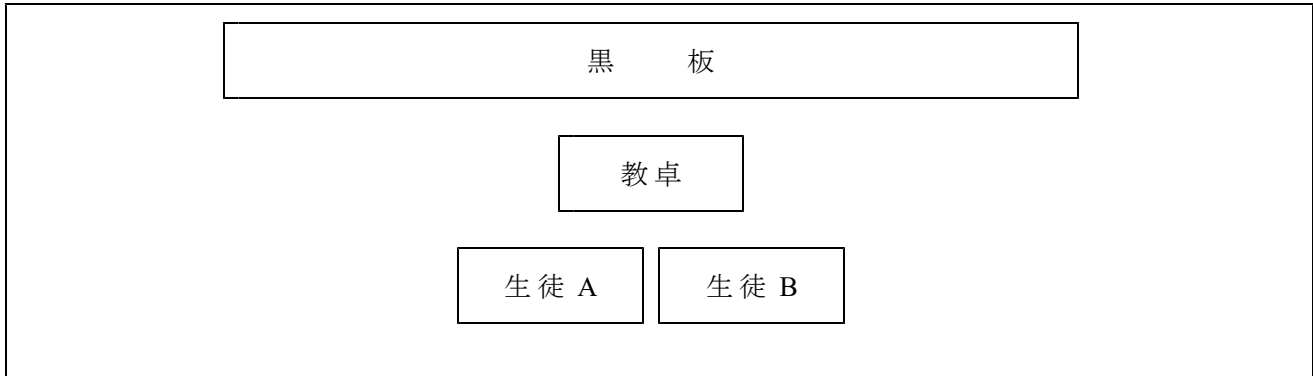
※協働する力 3 : お互いの考えの共通点、相違点を比較したり分類したり関係付けたりするなど整理することができる。

※メタ認知 2 : 授業の過程を振り返り、活動をしたことによって、自分の理解が深まったかを考えることができる。

(4) 板書計画

<p>目標</p> <p>友達とのやりとりの中で、自分の心情と、そのときの相手の心情を考えよう。</p> <p>場面</p> <p>「違うクラスにいる友達に会いに行ったときのやりとり」</p>	<p>1 ①②の自分の気持ちと③の発言について考えてみよう。</p> <p>〈生徒 A〉</p> <p>〈生徒 B〉</p> <p>自分の気持ちを伝えた</p> <p>友達の気持ちを考えている</p> <p>考えていない</p> <p>伝えていない</p>	<p>2 ③でどのように友達に伝えればよかったか考えてみよう。</p> <p>〈生徒 A〉</p> <p>〈生徒 B〉</p> <p>自分の気持ちを伝えた</p> <p>友達の気持ちを考えている</p> <p>考えていない</p> <p>伝えていない</p>	<p>③ 2人の意見をまとめよう</p> <p>自分の気持ちを伝えた</p> <p>友達の気持ちを考えている</p> <p>考えていない</p> <p>伝えていない</p>
--	--	---	--

(5) 場の設定



(6) 全体評価

- ア 他者とのかかわりの場面から、自分や相手の心情を考えることで、よりよい言動について考えることができたか。
- イ 友達の考えの良さを発見したり、自分の考えを認めてもらったりすることで、考え方に深まりや、自己肯定感をもつことができたか。

(7) 個人評価

生徒 A	<p>ア 自分の気持ちや相手のことを考えた発言をすることができたか。</p> <p>イ 自分の考えた発言に対する友達からの意見を聞き、よりよい発言について考えることができたか。</p>
生徒 B	<p>ア 自分の考えを整理して相手に伝えることができたか。</p> <p>イ 考えた発言を友達に認めてもらい、よりよい発言について考えることで、自己肯定感をもつことができたか。</p>

学校・学年	中学校・第2学年 生徒 A
障害の種類・程度や状態等	自閉症 言葉でのやりとりはできるが、他者の意図や感情の理解が苦手である。
事例の概要	人との関わりへの自信と意欲を取り戻し、コミュニケーションの力を高める指導

① 障害の状態，発達や経験の程度，興味・関心，学習や生活の中で見られる長所やよさ，課題等について情報収集
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に熱心に取り組んでおり，大会のことや技術面に関する話をするのが好きである。 ・特別支援学級では，リーダーシップを発揮し，先頭に立って活動する場面が見られる。 ・他者とのかかわりの中で，相手の気持ちを考えない言動が見られる。 ・噂話をたくさんの人に言ってしまい，傷つけてしまうことがあったが，そのことを理解できていない。 ・相手からの何気ない言動で落ち込み，自分の気持ちを整理することができない。また，なぜ落ち込んでいるのかを伝えることができず，長い時間落ち着くことができないことがある。 ・授業（50分）に集中できない。 ・模写することが得意で，字の大きさや形を捉えて丁寧に書くことができる。 ・既習漢字を書くことは得意だが，英単語を読んだり，書いたりすることが苦手である。 ・習い事で遅くなり，睡眠時間が少なく，学校で眠くなり教師の説明を聞くことができないことが多い。

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・体調を整えるために計画的に日常生活を送ることができない。	・友達とうまく関われないことに不安を感じ，集団の中で活動ができない。	・相手の表情や態度から総合的に判断することができず，肯定的に捉えることができないことが多い。			・相手の感情や意図を理解できず，相手を不快にさせてしまうことある。

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や，これまでの学習状況の視点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・学習上の困難は，生活習慣や他者とのかかわりの不安から，説明を聞いたり，課題を解いたりするときに集中できないことがある。 ・普段の人間関係において，相手の感情や意図の理解が不十分なことによる困難が増えてきている。場に応じて相手の気持ちを理解した言動がとれない。

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業後の進路を見据え，規則正しい生活習慣を身に付けたり，報告・連絡・相談を行うことができる力を身に付けたりする必要がある。 ・他者の話す内容や感情，意図を理解して，状況に応じたコミュニケーションの取り方を身に付ける必要がある。 ・困難なことがあったとき，気持ちを落ち着かせたり，援助を求めたりする方法を身に付ける必要がある。

③ ①をもとに②-1，②-2，②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・困ったとき，気持ちを落ち着かせる効果的な方法が身に付いていない。(心) ・他者とかかわるときに，相手のことを考えた言動が身に付いていない。(コ) ・困ったときに，話すことを整理して，他者に援助を求めることが難しい。(人)

④	③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに、気持ちを落ち着かせる効果的な方法が身に付いていないことで、落ち着くまでに長時間を要してしまう。逆に、気持ちが落ち着いているときに、他者の気持ちを考えない言動をとってしまう。従って、気持ちを落ち着かせるために、他者の言動から感情や意図を理解したり、他者に相談して落ち着かせるための効果的な方法を考えたりすることができるようになることが大切である。 ・合わせて、他者のことを考えた言動ができるようになることが大切である。 ・これらの学習において、他者とのかかわりの場面から、他者の言動から感情や意図を理解し、自分の気持ちを整理して伝えることができるような指導が望ましい。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階
	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の言動から意図や感情を理解し、相手のことを考えながら、伝えたいことを整理して話すことができる。 ・意見交換から自分の考えとの違いに気づき、考え方に広がりをもつことができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること			(4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント
<p>〈自分の気持ちや相手の気持ちを考えた言動ができるように〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (人)(2)と(人)(3)と(コ)(5)とを関連付けて設定した指導内容が⑧アである。 <p>〈人とのかかわり方がより良いものになるために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (心)(1)と(コ)(4)とを関連付けて設定した指導内容が⑧イである。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	⑧ 具体的な指導を設定する段階	
	ア 学校生活の中で起こりうる場面を通して、他者とのかかわり方について振り返り、よりよいかかわり方について考える。	イ 意見交換をする中で、自分の考えを認めてもらったり、相手の考えの良さを発見したりすることで、自分の考えをよりよいものにする。

学校・学年	中学校・第2学年 生徒 B
障害の種類・程度や状態等	自閉症 他者の意図や感情の理解が苦手で、自己肯定感が低い。
事例の概要	自己肯定感を高め、他者とよりよいかかわり方ができるようになることを目指した指導

① 障害の状態，発達や経験の程度，興味・関心，学習や生活の中で見られる長所やよさ，課題等について情報収集
<ul style="list-style-type: none"> ・絵（人物）を描くことが好きで、休み時間などを利用して描いている。 ・特別支援学級の生徒や交流学級の仲の良い生徒と楽しく過ごすことができるが、相手の話に合わせるだけで、自分の素直な気持ちを伝えることができない。 ・噂話や級友の態度にとっても敏感で、自己肯定感が低く、自分の気持ちを調整できないことがある。 ・家庭や学校で困ったことが起きたとき、他者から何があったか聞かれても何もなかったかのようにごまかして自分の気持ちを伝えることができない。 ・学習に集中して取り組むことができ、時間はかかるが説明された解法を利用して解くことができる。 ・計算ミスが多い。負の符号の付け忘れが多い。過程をなぐり書きしてしまい、間違えることがある。 ・運動に苦手意識があり、それに関する授業があるとき、遅刻したり、欠席したりすることがある。 ・体調不良や発熱による欠席が見られる。 ・宿題を夜遅くまで取り組んだときは、次の日の起床が遅くなり、遅刻することがある。

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・体調を整えるために計画的に日常生活を送ることができない。	・友達とうまく関わっていないことに不安を感じ、自己肯定感が低くなる。	・相手の表情や態度から総合的に判断することができず、肯定的に捉えることができないことが多い。	・聴覚や視覚から情報を得て、時間をかけて理解することができる。	・運動が苦手である。取り組む前から苦手意識が強い。	・異なる考えであっても、相手の意見に合わせてしまい、自分の意見を伝えることができない。

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い相手に対しても、自分の意見を言えず受け身になることが多い。 ・普段の人間関係において、相手の感情や意図の理解が読み取れず、困難が増えてきている。 ・困ったときに、他者に援助を求めることができず、いつまでも困った状況を解消できないことがある。そうした状況が続くと、集団の中に入れなくなってしまう。

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業後の進路を見据え、規則正しい生活習慣を身に付けたり、報告・連絡・相談を行うことができる力を身に付けたりする必要がある。 ・他者の話す内容や感情、意図を理解して、状況に応じたコミュニケーションの取り方を身に付ける必要がある。 ・困難なことがあったとき、気持ちを落ち着かせたり、援助を求めたりする方法を身に付けるために、自分の考えを整理して、相手に伝えることができるようになる必要がある。

③ ①をもとに②-1, ②-2, ②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・困ったとき, 気持ちを落ち着かせる効果的な方法が身に付いていない。(心) ・他者とのかかわりで, 感情や意図が読み取れず, 自己肯定感が低くなる。(人) ・困ったときに, 自分の考えを整理して他者に伝えることが難しい。(コ)

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し, 中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> ・困ったときに, 他者に援助を求めることができず, 落ち着くまでに長時間を要してしまう。従って, 気持ちを落ち着かせるために, 自分の考えを整理し, 他者に伝え, 援助を求めることができるようになることが必要である。そこで, その状態を収める方法を身に付け, 自己肯定感を高めていくことが大切である。 ・合わせて, 相手の言動から感情や意図を理解できるようになることが大切である。 ・これらの学習において, 他者とのかかわりの場面から, 他者の言動から感情や意図を理解し, 自分の気持ちを整理して伝えることができるような指導が望ましい。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを整理して, 相手に伝えることができる。 ・他者とのかかわりで, よりよいかかわり方について考えることで自己肯定感を高めることができる。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること。	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること			(4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント
<p>〈自分の気持ちや相手の気持ちを考えた言動ができるように〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(人)(2)と(人)(3)と(コ)(5)とを関連付けて設定した指導内容が⑧アである。 <p>〈人とのかかわり方がより良いものになるために〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(心)(1)と(コ)(4)とを関連付けて設定した指導内容が⑧イである。

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	⑧ 具体的な指導を設定する段階	
	ア 学校生活の中で起こりうる場面を考える活動を通して, 発表や意見交換で自分の考えを相手に伝える。	イ 意見交換をする中で, 自分の考えを認めてもらったり, 相手の考えの良さを発見したりすることで, 自分の考えをよりよいものにする。